

令和元年度第4回地方独立行政法人加古川市民病院機構評価委員会 議事要旨

日時 令和2年1月28日(火) 16時00分から17時15分

場所 加古川中央市民病院 管理棟3階

出席者(委員) 森脇委員長  
加堂副委員長  
中田委員  
石井委員  
溝端委員

報道関係者 1名

傍聴者 0名

- 会議次第
1. 開会
  2. 議題
    - (1) 令和元年度業務実績報告[上期]について
    - (2) その他
  3. 閉会
  4. 事務連絡

配付資料

資料1：令和元年度業務実績報告（4月～11月）

資料2：令和元年度経営状況報告（4月～11月）

1. 開会	開会の宣言
2. 議題	森脇委員長よりあいさつ
	病院の再編統合について国が公立・公的病院名を公表するなど、話題となっている。公立病院だけでなく、民間病院も同様の状態である。市民病院機構も5年、10年先を見据えて取り組んでいただきたい。 本日も、委員の皆様には忌憚のない意見をいただきたい。
	(1) 令和元年度業務実績報告[上期]について
	[大項目評価]
	令和元年度の4月から11月までの業務実績及び経営状況について、資料1及び資料2に基づき、法人から報告を行った。 (主な意見、質問) ・常に稼働率が90～91%の印象を持っていたが、5月と9月の稼働率の下がり方が気になるところである。しかしながら、安定した経営が維持できている。 ・無駄なく医療を適正に提供できている。今の状態を継続できるよう、今後も効率よく運営してほしい。 ・費用面が全体的に膨らんでいるが、優秀な人材の確保や高度医療機器の整備など次の目標に向けて準備されており、次年度以降も期待している。 ・今年4月には診療報酬が改定され、急性期病棟についても見直しされている。対応できるよう、しっかり準備をしていただきたい。 ・周産母子センターの分娩件数が減少しているが、何か原因はあるのか。 ・ダヴィンチ使用状況は順調か。 ・患者満足度向上のために病院として、重点的に取り組んでいることはあるか。 (機構回答) ・産科医が思うように確保できない現状であり、今後も今以上に医師の確保が難しくなると考えている。そのような中、当院は、ハイリスク妊娠を中心に受け入れており、ハイリスク分娩件数は増加している。また、緊急母体搬送も可能な限り受け入れている。 ・分娩数全体の件数が減少していることも考えられる。 ・ダヴィンチは、泌尿器科と消化器外科で使用しているが、消化器外科は直腸のみを対象疾患としている。また、使用にあたっては、消化器外科は資格が必要であり、当院では資格を持っているのが1名しかおらず、しばらくこの状態が続くことになる。 ・教育支援センターで全職員対象に外部講師による接遇研修を実施している。また、ご意見箱を中心とし、患者の意見を収集し、病院全体で情報共有や改善に向けた取組をしている。 ・待ち時間が課題であり、医療業務部を中心に改善に向け取り組んでいるところである。
(2) その他	
意見なし。	

<p>3. 閉会</p>	<p>&lt;委員会を代表し、加堂副委員長よりあいさつ&gt;  今年度の経営状況は、過去2年間と比較すれば伸びは少ないが、安定している。安定している時期に、今まで取り組んでいなかった医療などに取り組んでほしい。日々、医療の状況が変化していく中で、今後は近隣の病院や患者の動向に注視しながら、体制を整備して行ってほしい。</p> <p>&lt;事務局を代表し、井部福祉部長よりあいさつ&gt;  今年度4回の委員会において、熱心にご議論いただいたことに対しお礼申しあげたい。加古川中央市民病院は、誕生から生涯を支え、頼られる病院として市民の皆様の中に定着してきている。今後、更に健全な病院運営と高度専門的な医療を提供できるよう、引き続き委員の皆様のご指導を賜りたい。</p> <p>閉会宣言</p>
--------------	---